

電友会だより

(発行日)

平成二十九年

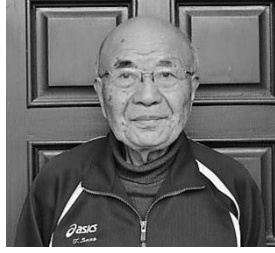
三月一日

(発行責任者)

佐野常雄

会長あいさつ

会長 佐野常雄 (昭和三十一年卒)



平成二十八年十月の定例総会で歴史と伝統のある、電友会会長の大役を仰せつかりました。本当に恥ずかしい会長でございます。実は、電気科卒業後、電気関係への就職はせず就任を許し戴きたく、私の生涯の一端を申し上げて理解賜りたいと存じます。

昭和三十年、菊地巖電気科長から『工場経営』の教科を教わり、工場での物づくりは、人がつくる、その「人」の善悪で、良いもの出来る良い「人」にならなければならぬことを知ることが出来ました。昭和三十一年卒業の年に父(五十一歳)が病氣入院なので、自宅の農業を手伝いながらの職場を村のJA(農協)に九年間、農民の方々への社会的経済的地位の向上の為に、各種の資格を取得して農家の方々喜んで農業に従事することが出来る様になりました。昭和四十年から村役場職員を三十三年勤める中で、村公民館の社会教育を担当し、東北大学の講習に社会教育主事の資格を戴き、村民を対象とした「生涯学習」を薦め、「人」は、自分の職業以外に興味を持ち、健康な体で、仲間づくりをして、社会奉仕(ボランティア)に施設慰問をして、喜んで戴いております。電友会会員、又は、入会されていない皆さまにも、定年退職後、公民館等で学習や趣味の講座で学び得て、余生を楽しくいたしましょう。又、村役場退職後平成十年から「明るい社会づくり運動 両沼地区協議会」に入会し、現在事務局長として、次の凶の目標に向かって活動しております。次を御紹介し、趣旨に賛同される方の入会をお待ちしております。

かんしゃ
感謝
ありがとう
何ごとも

きょうちよう
協調
皆んな仲よく
楽しくすること

ほうし
奉仕
私がいります
人から頼まれる
前にすること

私達は人の作ったもので生かされているので、すべてのものにありがとうと言うこと

生かされている人々と仲よく楽しくすること

助けて戴いた方々や困っている方々へお手伝いをしてやる

このことが達成された社会は、明るくなることでしょう。合掌

退任にあたって

前会長 菊地良三 (昭和三十七年卒)



昨年十月の電友会総会において役員任期満了に伴い会長職を退任致しました。二年間という短い期間でありましたが、本当に楽しく活動する事が出来ました。これも偏に会員諸氏のご協力の賜物であり厚く御礼申し上げます。特に事務局の皆様には会の運営全般に亘り誠心誠意尽くして頂きあらためて感謝申し上げます。

電友会とは同窓生の親睦を図ることが最大の目的で大きなイベントとしては、春の「史跡探訪」秋の「設備見学」があります。春の「史跡

探訪」は、特に戊辰戦争関連をはじめとする会津の歴史及び会津の仏教関係等について幅広く学んでいます。講師は先輩の大川原史郎さんにお願ひし、詳細な解説を頂き毎回参加者一同大満足の一日を過ごしております。秋の設備見学は自動車関連産業、精米工場、ランドセル製作工場等あまりお目にかかれない業種の実態に触れ、視野の拡大に役立っております。しかし、参加者が地元居住者に限られてしまうことが残念です。

あと大きな事業としては「電友会だより」の発行があります。これは電友会員相互及び母校会工電気科の情報交換手段で、同窓生の「絆」紹介と母校会工電気科生徒の活躍、進路関係の様子、先生方の思い等を掲載しています。

それから毎年十月には、当年度事業のまとめと次年度の計画を審議する「定例総会」があります。これは年一回の催しということで、地元は勿論関東地方からまた近年は岡山県在住の先輩の参加も得られ、一連の審議事項を経由し、懇親会では多彩な余興と母校の校歌、応援歌を青春の血を滾らせながらの大合唱で大いに盛り上がりを見せしています。

このように毎年楽しく賑やかに活動できたことをあらためて感謝申し上げたいと思います。

また会員拡充が大きな課題でありましたが高齢化で体調を崩される方、ご逝去される方などで退会される方が多く、新規入会者を上回り会員拡充につながらない現状にあることが非常に残念です。今後新規入会者が増え、電友会が益々充実発展されることを期待し、退任のあいさつとさせていただきます。

大変お世話になりました。



《電友会の活動報告》

◇史跡探訪(五月)

事務局 白井達夫(昭和四十三年卒)

新緑の五月二十三日、会員十四名で「河東地区の文化財を訪ねる」をテーマに、昭和三十年電気科卒で会津史談会副会長の大川原史郎氏の案内で開催しました。

以下、大川原氏から提供いただいた資料を参考に探訪個所の概要を紹介します。興味のある方はぜひ訪れてみては如何でしょうか。

【藤倉二階堂(延命地藏堂)】

所在地…会津若松市河東町倉橋字藤倉160の2

延命寺(真言宗豊山派)は徳一によって建立されたと伝えられており、境内の延命地藏堂は室町中期の建立で、主屋が桁行・梁間共に三間、裳階(もこし)が桁行・梁間共に五間の寄棟造りの禅宗様建築で、屋根が重層になっているため一見、二階建てを思わせる外観から藤倉二階堂の名で呼ばれている。造形の美しい建造物ということで明治三十六年特別保護建造物に指定され、現在は国の重要文化財に指定されている。内部には禅宗様の須弥壇(しゅみだん)が置かれ、厨子には台座から左足を踏み下げ、右足を立ち膝にし、それに右腕の肘を乗せ、頬に手を当てている「半跏趺座(はんかふざ)延命地藏尊」が祀られている。



藤倉二階堂

【伝皆鶴姫墓】

藤倉二階堂に近い藤倉集落の東に、源義経と皆鶴姫の悲恋を伝える

碑がある。(気仙沼の観音寺にも皆鶴姫の伝説が伝わっていると言ふ)

平家打倒を願う義経は、鬼一法眼の兵法秘伝書『六韜(りくとう)三略』を見せてくれるよう頼むが許されず、養女の皆鶴姫を通して密かに秘伝書を書き写したと云う。その後、平氏の追求が厳しくなり京都を離れ平泉へ。それを知った皆鶴姫は義経との子・帽子丸を抱き腰元や従僕を連れ義経を追い此の地まで着いた。義経の行方は解らず思い余って帽子丸と共に沼に身を投げたが助けられ、帽子丸だけは溺死し、この沼は帽子沼と名付けられた。帽子沼・神指町柳原菅原神社の東にあった沼。現在沼は残っていない。

藤倉村に辿りついた時には皆鶴姫は病に臥せ、村人たちの手厚い看護により春を迎えた。

難波の池に遊びに行った時、水面に映るやつれた自分の姿を見て驚き、池に身を投げてしまった。十八歳であったと言ふ。従僕たちにより池の畔に墓が建てられた。難波池・なにわのいけ。墓の西方に池跡を偲ばせる所が僅かながら残る。

【八葉寺】所在地…会津若松市河東町広野字冬木沢208

八葉寺縁起によると空也上人が京を発つたのが康保二年(965)霜月で、会津には翌年の初夏に入ったと言われる。北の方角に紫雲のたなびくのを見て辿りついた所が冬木沢であった。この地に堂宇を建て仏像を安置し、手ずから独鈷杵(どっこしよ)を持って井戸を掘った。すると忽然と清水が湧き出し、その流末には八葉の白蓮が生じた。上人は驚きかつ悦び、寺山号を如来山八葉寺と名付け、ここを終生の布教の地と定めた。時に上人六十四歳であった。

境内は、阿弥陀堂(正面) 国重要文化財(文禄年間再建) 三間四面・屋根(入母屋・茅葺)を本堂とし、右に十王堂、左に空也上人像を安置する空也堂、奥に空也上人墓地の奥之院(奥)。寺名の由来となった、かつて八葉の蓮があつたとされる池「閻伽井(あかい)」がある。



伝皆鶴姫墓

置する空也堂、奥に空也上人墓地の奥之院(奥)。寺名の由来となった、かつて八葉の蓮があつたとされる池「閻伽井(あかい)」がある。会津地方では盆前の八月一日から七日までの期間、八葉寺に死者の供養のために参詣する「冬木沢参り」の習俗がある。家族が死亡すると死者の初盆前に家族が故人の歯、骨、爪、毛髪などの一部を持ち寄り、木製の小型納骨塔婆や納骨器に納め、八葉寺に奉納する。この「冬木沢参り」習俗で文禄年間から現在まで約一万五千点の小型納骨塔婆が納骨堂に収納されている(国重要有形民俗文化財指定)。また、「空也念仏踊り」(県重要無形民俗文化財指定)が毎年八月五日に空也堂前で奉納されている。

当日は前記の史跡に加え「曆応りやくおうの碑」や「藤倉館」を約二時間で巡り、心地良い汗を流した後、昼食会で交流を深めました。

毎回、充実した資料提供および案内役の大川原さんに御礼申し上げます。

八葉寺にて



◇施設研修会(八月)

副会長 鹿目 忠明 (昭和四十年卒)

今年の施設見学会は八月三十日午後から行われました。行き先は、「株式会社東北むらせライス福島工場」、ランドセルメーカーの「株式会社羅羅屋(ららや)会津若松工場」です。

いつものように十三時飯盛山駐車場に集合です。折りしも台風が接近中で、雨と風の中で集合を待ちました。今回の参加者は少し少ない十一名でした。

四台の車に分乗し、磐梯河東インターチェンジ脇の「むらせ」に向かいました。

この工場では集荷組合等から購入した玄米を精米し出荷しています。最初に会議室で佐藤工場長に会社概要と製造工程を説明していただきながら工場を案内していただきました。

「安全でおいしいお米を福島から」をモットーに月産約四千トンを加工しています。入荷した米は放射能検査に合格したもののだけが工場内に搬入されます。玄米工程と精米工程を経て製品別包装ラインから出荷されます。各工程で石やゴミなどの異物を自動で取り除きます。最後に金属検出機を通過します。光センサーとエアガンを組み合わせた不良米の検出機には驚かされます。包装された米袋はベルトコンベアで運ばれ、ロボットアームが自動的に一定数を荷崩れしないように向きを変えて積んでいく。これらはコンピュータ管理によるラインコントロールで多品種小ロットにも対応できるそうです。品質管理室には一合炊きくらいの小さい炊飯器がたくさんあり、実際に炊いて食味を確認しているとのこと。最新の設備が並んだ工場にただ感心するばかりでした。

次に、株式会社羅羅屋会津若松工場へ向かいました。

河東総合体育館の隣にあり、2012年にできたきれいな工場です。最高級の人工皮革「バルバイオ5」を使用し、形態安定加工を取り入れ強くて丈夫、背負いやすいなど、安心、安全、高品質なランドセルを製造しています。玄関を入るとショールームになっており製品のランドセルが多数展示されています。ランドセルは赤か黒というイメージしか持っていないので、ピンク、ブルー、紫、緑といったカラフルさにはビックリしました。もちろん赤と黒もあります。昔はB5版タ

イプでしたが今はA4版がOKと、大きくなっています。また、大人も使える角型のランドセル(?)もあります。手提げ鞆を背負うような感じですね。

案内して下さるかわいいお姉さんから工場の概略を説明していただいていた見学です。ランドセルは皮を裁断し縫い合わせてできあがるのですが、大きさが違ういろいろなパーツがあるので工程は500にもなるそうです。これにはまたビックリです。工場内では工程ごとにまとまり、ミシンで手際よく縫い合わせています。一見ただけではどこの部分かわかりません。あたりまえかな・・・見学後、ランドセル生地を使った物作り体験に挑戦しました。一番簡単そうな「キーホルダー」を作りました。現在、車のキー用に使っています。

キーホルダー



安全で
おいしいお米、
福島から。

株式会社東北むらせライス



ランドセルの羅羅屋

◇定例総会(十月)

事務局長 白井 達夫 (昭和四十三年卒)

第二十二回定例総会および懇親会は、平成二十八年(二〇一六年)十月十四日(金)に、会津若松市内の「ホテルニューパレス」で、会員二十四名とご来賓の八名を加えた三十二名で開催されました。

総会は、鹿目忠明さん(昭和四十年卒・会津若松市)の司会進行により物語者に対する黙禱と校歌斉唱の後、星陽一さん(昭和四十年卒・東京都)を議長に選出し、平成二十七年(期)間・平成二十七年十月一日〜平成二十八年九月三十日)の活動経過報告、会計・会計監査報告さらに平成二十八年年度の事業計画(案)・予算(案)、会員拡大に資する規約改正(案)と役員改選(案)の各議案が満場一致の拍手で承認可決されました。

議事終了後には、会工高・電気科の井上浩一主任より、卒業生の進路状況など後輩の近況報告を受け、後輩の活躍に全員の大きな拍手でエールを送りました。

総会終了後の記念講演は、会津若松市高齢福祉課の國廣多美子氏を講師にお招きし「忘れん脳生活〜認知症を防ぐ遅らせる」と題した講義を拝聴しました。会員の年代からして明日は我が身との思いから?多くの質問で賑わった講演会でした。

恒例の懇親会は、中丸茂由さん(昭和四十年卒・会津若松市)の司会で開会。ご来賓を代表して若狭春生同窓会長および高橋進一会工高教頭より



佐野新会長・大黒舞



高橋教頭



若狭会長

〈ご来賓挨拶〉

電友会 第22回定例総会



(右) 渡部 優生 県議員
S55 機械科卒
(左) 村澤 智 会津若松市議
S62 電気科卒



声高らかに 応援歌

ご祝辞を頂戴した後、田村万司さん(昭和二十七年卒・泉崎村)の発声による乾杯で祝宴に入りました。佐野常雄新会長(昭和三十一年卒・湯川村)の大黒舞はじめ根本一雄さん(昭和三十六年卒・会津美里町)の紹介による女性二名のフラダンス披露などで大いに盛り上がりました。お開きは、恒例により応援歌A調、頑張れ応援歌を全員で声高らかに歌い上げ、青春の熱い血を呼び起こしました。〈事務局からのお知らせ〉

次回の第二十三回会工電友会定例総会は、平成二十九年十月二十日(金)ホテルニューパレスで開催予定です。また、本部同窓会総会は翌二十一日(土)に開催されますので合わせてご参加ください。

《会工高 電気科からの寄稿》

「三年間を振り返って」

三年電気科 上杉 風雅

私が会津工業高等学校に入って、約三年が経ちました。長いようで短かったこの三年間を振り返ってみて思ったこと、感じたことを書かせていただきたいと思います。

入学して最初にあった出来事は、国家資格の第二種電気工事士の受験です。電気知識がほぼゼロの私には未知の世界でした。しかし、先生方の熱いご指導により、直前の模擬筆記試験の過去問題ではクラス90%が合格点を取ることができました。試験本番ではクラスの70%が筆記試験を合格しました。

実技試験では電気関係の器具に触れ、自分たちが簡易的に工事することと感動しました。結果は筆記試験合格者の90%が一年生の時点で合格しました。

現在では、一、二年生で再受験した人もおり、95%が取得しています。

一年生の時の行事はとにかくすべてが初めてでした。球技大会、競歩大会、体育祭、ミニ文化祭と、三年生の迫力に押されてなるようになれといった感じでした。

行事で印象に残っているのは体育祭です。三年生が主体となって進めた応援練習で、電気科はダンスを踊りましたが、あの時の三年生はとも頼りになってかつこよかったです。三年生のおかげで電気科が一体となり応援練習では優勝できました。

一年生の勉学面では標準テストが一番頭を悩ませました。キルヒホッフを理解はしていたのですが、三元連立方程式で解を求めるのができず、様々な先生方にご指導いただき、電気科の先生だけでなく数学の先生にもお世話になりました。さらにコンデンサの静電容量を求める式が覚えられず語呂合わせを使用して覚えることもありました。

二年生に進級して大きな行事が二つありました。一つ目は修学旅行です。一日目、二日目と京都に行き金閣寺、清水寺、班別自主研修に行きました。

金閣寺ではとてもきれいな景色で普通のお寺とはまた違った美しさが

ありました。清水寺ではよくテレビで見る風景が広がっており、テレビで見るとも歴史を感じることができました。班別自主研修では、京都の町を歩いて都会の一面と歴史的な一面の両方を楽しみました。神明通りのような風景も見れて面白かったです。

三日目、四日目は薬師寺、USJ、大阪城に行ってきました。薬師寺ではお坊さんの話を聞いてきて面白いながらも内容はとてもためになる話でした。大阪城では大阪の歴史を学びました。とても大きなお城なので上るだけでも一苦勞でした。会津と同じように歴史が深い街だったので、親近感があったと同時にとても関心がわきました。

二年生の文化祭では映画喫茶をやりました。映画をキャスト、台本と自分たちで考え撮影編集しました。喫茶店は内装外観とも手の込んだ作りになりました。全員で一つのものを作ったので、団結力が上がりました。

三年生では学校の最高学年としての活動が増え、一年生とは反対にすべての行事が最後になりました。中でも体育祭では前回応援合戦で優勝していたので気合を入れて練習したのですが、二年生のインターンシップと重なり練習時間が取れず優勝できませんでした。進路については毎年大手企業に就職する生徒が多いので、内定をもらうために夏休みを活用して毎日二十時まで残って勉学に励む生徒が多くみられました。今年も多くの生徒が大手企業に就職できました。

三年生も残りわずかです。卒業します。名残惜しいですが各々が未来の電気関係を支え、発展させるために日々精進していくよう努力したいと思えます。



「二年間の反省」

二年電気科 渡邊 一輝

会津工業高校電気科に入学してから二年が経過します。入学式、初めて顔を合わせる人が多い中、南体育館で担任の先生から名前を呼ばれ、四十人が大きな声で返事したのを忘れません。その日から私達の高校生活が始まりました。

入学してからすぐに、第二種電気工事士の資格取得に向けての勉強が始まりました。入学当時、私は電気知識はほぼゼロに近い状態です。最初は全員問題を解くのに苦戦していました。しかし、授業や放課後の補習、先生方の熱心なご指導のおかげで、分からない問題が少しずつ解けるようになりました。最初のうちは、解けずに投げ出す生徒もいましたが、知識が少しずつ身に付いて行くにつれ、授業・補習に集中して取り組めるようになりました。そして、三十三名が合格しました。

一年生の時は、すべてが初めてでした。各行事があるごとに緊張と楽しみで胸がいっぱいになり、クラス・学年が団結して各行事を成功させてきました。気づいたら、一年生が終わり二年生になっていました。

二年生になると、あっという間に時間が過ぎて行きました。一番の思い出は修学旅行です。三泊四日の京都・大阪・奈良旅行です。この旅行で、班員と協力すること、助け合うことを学びました。

もう数ヶ月で三年生になります。これから、気持ちを強く持ち、自分の進路実現のために自分としっかり向き合い、進路を決定しなければなりません。

担任の先生や両親と話し合い、一年後にはクラスみんなが笑っていられるよう努力します。



E

ELECTRICIT

「電気科での三年間」

三年電気科担任 鈴木 秀希

教員になって四年目で、初めての担任を電気科で務めさせていただきました。三年間、電気科で過ごさせていただくことをきっかけに、電気は私たちの日常に欠かすことのできない素晴らしいものであるということ再認識することができました。

生徒と共に発電所やダムを見学する機会を通して、多くの人々の苦勞によつて私たちの生活が成り立っていることを学びました。特に寸分の狂いもなく、機械を扱う様子は普通高校で育った私にとって非常に興味深いものでした。また、再生可能エネルギーの研究などによって生活をより良いものにしていく姿も将来へ大きな期待を抱かせる有意義なものであると感じました。

このような明るい未来のある電気の世界へクラスの子供たちが羽ばたいていくと思うと、担任として嬉しく思います。生徒には、電気科で学んだことを活かし人々の生活を支えてほしいと感じております。今年の電気科の卒業生も例年と同様、電力系企業・電気保守点検などへの就職や大学への進学が決まっています。常に学び続ける姿勢を持ってそれぞれの進路で活躍することを願っています。



「電気科だけに」

電気科主任 井上 浩一

会津工業高等学校に赴任して五年が過ぎました。生徒達の教職員を敬う姿勢に、癒されながら日々の業務に取り組んでおります。

今年度の三年生の進路状況について紹介します。就職希望生徒が県内に十一名、県外に二十名の内定を、大学進学希望生徒は電気系学部へ三名、その他の専攻に六名の合格を勝ち取り、全員の進路先が確定いたしました。

多くの生徒の進路先が、電気系であることを大変うれしく思っております。

電気の魅力は、日本経済を支えているエネルギーであります。夜に灯りを提供してくれる電灯、工業製品を形作るための機械工作機器、我々の居場所に快適な環境を作り出す空調設備等、全て電気エネルギーを利用しています。

国民の90%以上が所持している携帯電話は、電気業界の発展により生産されたものです。心臓部となるCPUが高速であること、バッテリーの長寿命化、電子部品に筐体の小型化、液晶画面の鮮明さ、電波状況を快適にするための通信インフラ整備等、全てが電気エネルギーの恩恵を受けております。しかし、海外に目を向けると、電気を二十四時間安定供給できる国は先進国であり、発展途上国は停電が未だにあるそうです。

本校の卒業生が、夏休みに来校し仕事の話をしてくれました。東南アジアに新工場を設立する業務に関わり、変電設備を設置したそうです。しかし、国営の電力会社が停電となり、通電試験ができなくて困ったと話をしてくれました。

海外からのライブ中継がリアルタイムで見られる現在、停電があるとは考えられなかったのですが、電気関係の環境整備には、多くの時間と労力がかかることを改めて痛感するばかりです。一方、卒業生が実際に電気業界を支える人材に成長していることを感じる事ができ、幸せな気持ちにもなりました。

電気というものが、物理的にも精神的にも、私たちの生活に深く関わっていることを感じずにはいられません。

電友会の皆様、本校電気科は、電気業界を支える人材育成を目的とし、日々の業務に取り組んでおります。工業高校の電気科の資格といえる第二種電気工事士の今年度の卒業生の取得率は95%になります。日本国の電気供給の需要率ほぼ100%にもう一步でした。残り5%されど5%であり、私たちの指導体制の見直し5%と思っております。電気の世界に貢献できる人材を一人でも多く育成するように努力いたします。

卒業生へ、本校電気科の三年間はどうか？ 本校の学校生活

から学んだこと、成長できたことがありますか。物事をすすめるのも成長するのにも一歩ずつであります。各自、次のステージで自分の課題に真剣に取り組んで下さい。電気業界が日々進歩するように、君たちの成長はこれからであります。前途は明るい。

“かぢのまち”より応援しています。卒業おめでとうございます。



卒業



《会員動向&寄稿》

◎平成二十八年秋の叙勲受章者のご紹介

猪苗代町議を7期28年

☆旭日双光章

はせがわ よいち
長谷川 与一さん70

猪苗代町



猪苗代町出身。会津工に努めた充実感がある。

高、法政大法学部卒。昭和五十九年に町議に初当選し、平成二十四年まで七期二十八年間務めた。十八年から二年間、議長に就いた。
—自然災害の対応やスポーツ振興など町のため

昭和40年電気科卒
(現:会工電友会監事)

電力の安定供給に貢献

☆瑞宝章

くりき たかひこ
栗城 隆彦さん74

三島町宮下



東北電力で水力発電部門一筋に歩き、電力の安定供給に努めた。「生活に欠かせない電気を起こす縁の下の力持ちの役割が認められてうれしい」と喜びに浸る。
会津若松市出身。会津工高卒。昭和三十六年に

入社し、発電所の運転操作や動力設備の補修などに当たった。阿賀野川管

理所副長、只見川ダム管理所長などを務め、平成十四年に退職した。

「在職中にできなかった分、三島町に貢献したい」と区長や神社総代、

保護司などの地域活動に励む日々を送っている。

昭和三十六年電気科卒 (現:会工電友会監事)

※おめでとうございます

会報掲載にあたっては、福島民報社
平成28年11月3日の記事を引用しました。

惜別 西村一夫元会長追悼のことば

元会長西村一夫氏(昭和31年卒)は、平成二十一年から二年間務められ平成二十八年八月八日逝去されました。告別式での東北電力(株)会津電友会会長佐藤敏雄様の弔辞の内容から追悼のことばといたします。
『平成二十八年一月会津電友会の新年会には笑顔絶やさず元気な姿で参加され「お互いに無理をしないで頑張ろう」と言って別れられたのが最後でした。西村先輩を顧みますと、昭和三十一年、東北電力(株)福島営業所へ入社、その後、平・若松・喜多方営業所に勤務され、一般家庭に電気を供給する上での配電部門の第一線において、常に技術者としての強い責任感と誇りをもって電力の安定供給に多大なる貢献を果たされました。当時の日本の情勢は、高度経済成長期にありましたから、電力供給の安定は欠かせない課題であり、その様な時代背景の中での勤務は気の休まる暇もなく気苦労の多い毎日だったと思えます。昭和五十七年福島支店で東北電力のOA機器導入に向けての基準指針などを構築され、新設事務機械化の部門を担当されました。昭和六十三年から、若松・いわき・福島営業所各々の副所長を歴任され、平成七年会津碍子(株)に出向され、平成八年退職に至るまで要職に籍をおかれられました。西村先輩の職場生活面には、温厚な人柄から多くの同僚に慕われ特に後輩の指導には優しく時には厳しい目を持って接しておられました。若手社員には、技術面のみならず日常に於ける常識・生活面などでも指導して頂きました。そのご指導は今以って現役の社員に引き継がれ脈々と息づいています。お陰様で技術の東北電力は将来に亘って健在であります。定年退職後も家族と多くの仲間と囲まれ楽しく充実した日々を送っておられました。特に、私共の会津電友会において多くの皆さんからの推薦によって長い期間役員を引き受けて頂きました。とりわけ、事務局長、会長に就任された時代は組織の過渡期にあり、多くの課題を抱えておりました。それら一つ一つみんなと話し合いながら地道に克服されました。西村先輩の求めた会員同士の親睦と連携を大切に会津電友会永遠に存在していくことをお約束します。ここに生前のご尽力ご苦労に対しまして深い感謝の念を捧げ心からご冥福をお祈り申し上げます。お別れとさせて頂きます。ありがとうございます。』
(文責 佐野常雄)

お別れの言葉

会津若松市 冠木 忠之（昭和二十八年卒）

謹んで手代木徳夫君を悼み申し上げます。

昨年の夏も終わる頃、奥様から手代木君の容態の終焉（しゅうえん）が近いとの知らせに病院に駆けつけましたが、こん睡の様（さま）でした。・・・強く手を握り、大きな声で手代木君と名を呼べば、眼を大きく開き応えてくれました。顔色もよく、安らかな様子に、安堵いたしました。・・・それなのに悲しい別れになる事は、痛恨やるせない思いでいっぱいです。

手代木君との出会いは、終戦復興果敢な昭和二十五年四月、新しい日本の義務教育制度6・3・3・4制度第一回入学生として、福島県立会津工業高校電気科に学んだことです。矢のように過ぎた、三年間の高校生活、親しく言葉を交わすこともありませんでした。双子の弟（利夫・建築科・本校同窓会会長）と共に詰襟の制服姿がよく似合う稀男（まれおとこ）でした、少し強引で強靱な精神と優しい心の持ち主と、私の心に強く残りました。・・・

級友たちはそれぞれの人生の道を歩み、歳月が流れ、「和吉会」（昭和二十八年電気科卒の会・恩師保志和吉先生の名を冠す）で会うことが楽しみになりました。隔年に開いた「和吉会」は十八回になりました。第三・四回の様子を当時は珍しいビデオカメラで撮影した参加者のメッセージが掛け替えが無い宝物として残りました。

当時は、保志和吉先生五十代、小高高校校長、私たちは黒髪の四十代、皆様のメッセージは、異口同音、意気揚々、企業戦士丸出しです。

手代木君は、三十六年前の第三回和吉会で、会社の事、家族の事に加え、なんと「先生の葬儀委員長は俺がやる」と豪語しています。第四回では「歳の順では先生が先、健康に留意し長生きしてください」と歯に衣着せぬ、優しさを滲ませ、乾杯の音頭を執る様子が残されています。

・・・嗚呼それなのに、先生より先に逝くなんて誰も思っていなかった。

更に「すでに十五組の仲人を務めた」と自画自賛に話す様子は、手

代木君の人柄の表徴です。そして「定年の後は、会津で暮らしたい」と将来の思いを語られていました。

ユアテック㈱に入社、東北各地の支社や営業所で研鑽し、故郷、福島支社社会津営業所所長として赴任、錦を飾りました、退職後は系列会社等の役員を務め、母校、会津工業高校同窓会役員、電友会第三代会長、会津若松南ロータリー会長、会津若松市中友好協会役員等々、果敢に地域の社会発展、奉仕に貢献なさいました。

自営業で視野の狭い私は、会津に戻られた手代木君から、幅広く研鑽を積み、還暦を越えても変わらない若さと勇氣、バイタリティーを多く学びました。

長い闘病、幾度も耐え乗り越えた大きな手術、雌伏（しふく）の姿に脱帽します。・・・

人生の終わり方は色々ですが、温かいご家族、多くの知音（ちいん）に見守られて逝く様はこの上ない至福でしょう。

葬儀は厳粛に執り行われた中、ビデオメッセージとは裏腹に恩師保志和吉先生の弔辞に感涙を禁じ得ませんでした。まして、九十半ばの師が八十を超えた子弟に弔辞奉奠（ちようじほうてん）を授与する事は稀稀（まれまれ）で、手代木君は何と果報者でした。

手代木君、さようなら！心安らかにお眠りください。心からご冥福を祈ります。



《電友会仲間の活動紹介》

「43 E(ヨンサンイー)会の近況報告」

会津美里町 白井達夫(昭和四十三年卒)

この会は、卒業の翌年から渡部豊文君が中心となって開催した「新年会」が発端で、以来脈々と続いている歴史的な同級会である。

昭和四十三年三月の卒業なので「43 E(ヨンサンイー)会」と称し、現時点では、会津の九名と郡山在住一名の十名が常連となっている。

毎年一月二日に「新年会」(会場は神明通りの味処)、奇数月の第三土曜日には定例会(中町の某居酒屋に午後六時集合)を開催し、近況報告や思い出話・時事(爺)放談・病気の相談・鬱憤晴らし:etc 時の経つのを忘れ歓談し連携を深めている。近年は、年一回「お泊り会」を地元会津で開催し、地域経済に貢献?しているものと自負している。今後の「43 E(ヨンサンイー)会」の目標と課題(小生の私見)。

①とにかく、毎回みんな元気で楽しく集えること。

②間もなく七十歳↓43 E同級生の「古希のお祝い」が出来たら良いな。

③常連を増やす。電友会・会工同窓会会員の拡大を図ること。以上

*メンバーを紹介します。見かけたら声をかけてください。



恒例の新年会 乾杯!

真鍋利光
佐藤静二
白岩三谷
渡部幸雄
白井達夫

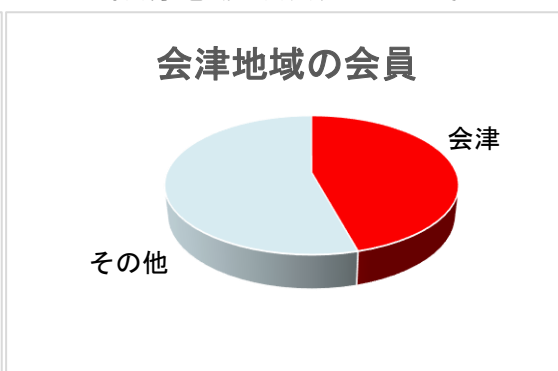
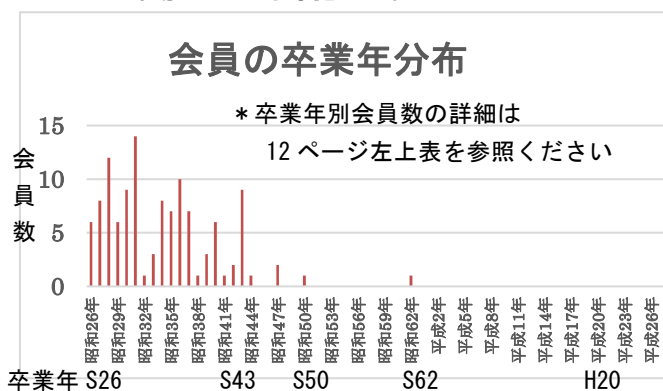


倉島和義
渡部豊文
浅田誠
中村喜美男

会員募集! ワイワイガヤガヤ とっても 楽しい会ですよ!

(明らかに高齢化です)

(会津地域の会員少なめかな)



職業や年齢を超え、新たな出会いも楽しいものですよ! (#`#)

学生たちの支援もしていますよ (がんばれ、ガンバレ、がんーぼーれ、...)

OB個々人として、できることには限りがありますが、....

電友会として様々なアイデアを出し合いませんか?

そして電友会のさらなる活性化!(フレーツ、フレーツ、...)

連絡お待ちしております m(_)_m

◎会員募集担当 : 47E菊地進 kikuchi@kansuiko.co.jp 080-5551-9941

「会工電友会」の新役員
(第二十二回定例総会で改選/任期二年…平成二十八年十月)

役職名	氏名	卒年	備考
会長	佐野 常雄	S31	新任(前副会長)
副会長	渡部 昭寿	S34	留任
	成田 良	S35	留任
	鹿目 忠明	S40	新任(前庶務)
監事	栗城 隆彦	S36	留任
	長谷川 与一	S40	留任
会計	近藤 信行	S40	留任
事務局長	白井 達夫	S43	留任
庶務	菊地 進	S47	新任(前理事)
理事	大越 一郎	S35	留任
	中丸 茂由	S37	留任
	藤田 晴史	S40	留任
	渡部 幸雄	S43	新任
顧問	栢森 幸雄	S27	留任
	山口 健	S29	留任
	荒明 正義	S30	留任
	根本 一雄	S36	留任
	菊地 良三	S37	新任(前会長)

「会工電友会」卒業年別会員数(平成二十八年十月末現在)

卒年	会員	卒年	会員
S 26	6	S 40	6
S 27	8	S 41	1
S 28	12	S 42	2
S 29	6	S 43	9
S 30	9	S 44	1
S 31	14	S 45	0
S 32	1	S 46	0
S 33	3	S 47	2
S 34	9	S 48	0
S 35	7	S 49	0
S 36	10	S 50	1
S 37	8	S51~	0
S 39	3	S 62	1

会員数 119名

会員の増加を図りましょう！
電気科・電子科卒の知人・友人を勧誘しましょう。

一報をお待ちしております。

◎会員募集担当:47E 菊地進

kikuchi@kansuiko.co.jp

080-5551-9941

「会工同窓会本部役員」に就いている電気科卒業生の紹介

会工同窓会本部役職名	氏名(敬称略)	卒年	備考
筆頭副会長	藤田 晴史	S40	本部選出
副会長	田中 健一	S42	東京会工学生会長
副幹事長	浅田 誠	S43	若松会工学生会長
幹事	渡部 昭寿	S34	本部選出
〃	近藤 信行	S40	本部選出
〃	野中 寿勝	S50	本部選出
〃	村澤 智	S62	本部選出
〃	本名 雄一	H13	近畿会工会事務局長
〃	星 秀明	S40	福島会工会幹事長
〃	長谷川 与一	S40	猪苗代会工会幹事長
〃 ¹²	小島 淳一	S41	本部選出
〃	白井 達夫	S43	会工電友会事務局長

【編集後記】

今回の「電友会だより」は、先輩役員の方々の叙勲を紹介させていただいたことを嬉しく思います。一方、電友会発展にご尽力くださった重鎮の方々の訃報は悲しい限りです。会員の皆様、今後とも健康と安全に留意され十月の総会でお会いしましょう！
電気科の皆様には年度末の大変お忙しい中寄稿いただき誠にありがとうございます。皆様方のご活躍をお祈り申し上げ御礼とさせていただきます。
(編集委員 白井 達夫 昭和四十三年卒)

*編集委員

佐野 常雄(昭和三十一年卒) 菊地 良三(昭和三十七年卒)
鹿目 忠明(昭和四十年卒) 近藤 信行(昭和四十年卒)
菊地 進(昭和四十七年卒)